

別記様式第1号（第4条関係）

木津川市地域連携保全活動協議会 開催結果の要旨

会 議 名	第6回 木津川市地域連携保全活動協議会		
日 時	平成25年11月8日（金） 午後6時から午後8時	場 所	市役所第2北別館 2階 会議室
出 席 者	委 員	■森本 幸裕（会長）、□深町 加津枝（副会長） ■長尾 輝冶、■田邊 英夫、■松岡 幸男、■岩井 照芳、 ■吉田 博次、■立花 志保、■吉村 文彦、□湯瀬 敏之、 □木俣 知大、■武田 学、 ■平塚 正純、■尾崎 直利 ※□：欠席者	
	オブザーバー	環境省 近畿地方環境事務所 ■田村 省二、■中山 良太	
	事 務 局	尾崎課長、奥田補佐、茅早主査、栗本（ひょうご環境創造協会）	
議 題	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 議事 （1）報告事項 ①積水化学グループによるCSR活動について ②第2回SATOYAMA市民フォーラムについて （2）協議事項 ・生物多様性木津川市地域連携保全活動計画中間案について ①第1章 計画策定の背景 ②第2章 計画区域の設定と現状 ③第3章 計画の内容 ④第4章 活動の内容 ⑤第5章 計画の推進 ・サブタイトル（愛称）のネーミングについて 5. 閉会		
審 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 会長あいさつ 森本会長から、第6回木津川市地域連携保全活動協議会の開催にあたり、あいさつがあった。 3. 議事 （1）報告事項 ①積水化学グループによるCSR活動について		

	<p>②第2回SATOYAMA市民フォーラムについて 事務局より、資料1に基づき説明し確認した。</p> <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性木津川市地域連携保全活動計画中間案について <ul style="list-style-type: none"> ①第1章 計画策定の背景 ②第2章 計画区域の設定と現状 ③第3章 計画の内容 ④第4章 活動の内容 ⑤第5章 計画の推進 <p>事務局より、資料2に基づき説明し、質疑応答を行った。 なお、本中間案に協議会での意見を反映させ、会長と協議後、パブリックコメントに付すことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブタイトル（愛称）のネーミングについて 事務局より、資料2に基づき説明し、質疑応答を行った。 次回の協議会で、再度検討することとした。 <p>4. 閉会 次回の協議会は、事務局より後日、通知することとした。</p>
<p>審議経過要旨</p>	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 会長あいさつ 審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①積水化学グループによるCSR活動について ②第2回SATOYAMA市民フォーラムについて 審議結果要旨のとおり。 <p>(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)</p> <p>○10月実施分が台風で中止になり、残念である。今回のCSR活動にかかる協定締結及び9月実施のCSR活動について、皆様からのご協力に大変感謝している。引き続き、従業員の環境意識向上に向け、取り組みたい。</p> <p>●ガーデンモール木津川は、どのような施設か。また、500人の来場者につ</p>

いて、買物客の飛び込みであったのか。

次年度以降も、このフォーラムを実施するのか。

→ガーデンモール木津川市は、1階には食料品やフードコート、2階は専門店等の複合施設である。フォーラム来場者については、買物客の割合は非常に高かった。なお、このフォーラムについては、より多くの方への啓発・PRを目的として、次年度以降も開催する予定である。

(1) 協議事項

・生物多様性木津川市地域連携保全活動計画中間案について

①第1章 計画策定の背景

②第2章 計画区域の設定と現状

③第3章 計画の内容

④第4章 活動の内容

⑤第5章 計画の推進

審議結果要旨のとおり。

主な意見・質疑等は次のとおり。

(○…質疑・意見、●…会長、→…質疑に対する返答)

● 全国でも例のない計画であることから、環境省も注目していると考え。また、計画には地元住民の気持ちも組み入れ、計画自体に木津川市の独自性を持つ必要があると考える。

また、ボランティアやNPOが地区内で、様々な里山活動をしているものの、将来への思いと実際にできることとは、かい離があることを理解しなければならない。対象地も広大で、どのように取り組むかを考えていく必要がある。全国では、里地里山として活用できそうな土地は、0.03%くらいであることから、活動団体などの活動だけでは問題の先送りとなるため、整備する市の役割をきちんと書く必要がある。本中間案には、市の役割を明記しているため、より良いものができたと思う。

加えて、CSR活動について、民間企業にも既に活動いただいているが、この活動について、応援団という組織を設置しコーディネートするのは、一つの特徴である。

もう一つ大事なこととしては、主流化の考え方が大切である。主流化とは、里山活動をボランティアや趣味として行うだけでなく、日々の生活の中に里山問題、生物多様性問題を溶け込ませ、活動に繋げていく事である。いかにそれを計画に入れるかが重要となってくる。

○ 本中間案に記載の活動を実際に実施することが重要である。活動団体と市の役割分担がそれぞれ明記されており、今後は、それを認識した上で進めていくことが大切である。

○ 実際に活動をしている団体としては、一つ一つ、コツコツとやっていくしかない。それを、しっかりと市に後押しをしてもらいたい。今後も継続した後押しをお願いしたい。また、活動には、後継者を作ることも大切であるとする。

なお、中間案における資料の出典の書き方に注意してもらいたい。

○ 23 頁について、イメージ図が描かれているが、保全活動しながら公園を作り、オオタカやカスミサンショウウオと共に生きていかななくてはならない難しさがあり、理想ともいえるイメージ図である。このイメージを達成するためには、活動する7つの団体が連携し、団結することが欠かせない。

○ 里山保全という側面だけでなく、植物という側面からも考える必要があるのではないかと。事実、鹿背山城の主郭に向かい、少し登るだけで、万葉の植物が20種類以上ある。

鹿背山城以外にも、^{ろくざんじ}鹿山寺という古代中世の貴重な遺跡があったことや、万葉集には「三諸つく鹿背山」と歌われ神の降臨する場所であることを一言でもいいから入れてもらいたい。

● 植物が残っているのは、里の特徴であり、重要である。実際、鹿などの被害により植物が減っているところも多い。また、鹿背山地区の特性として、鹿背山城など歴史的な史跡もあることから、明記していく必要がある。

○ 本中間案には、鹿背山城、クリーンセンター、そして自然と、人間とが共生することが問われていると考える。それを踏まえて里山環境保全を進めることは、画期的なことであり、我々もできるだけ今までにない里山の保全の仕方を考えるとともに、クリーンセンターのあり方を考えていきたい。

● クリーンセンターのあり方は重要である。市の役割として、クリーンセンターとの連携も明記されている。あと、将来像イメージ図が入っているので、描いた思いを聞きたい。

→ 木を伐採した時の空間や、オオタカの住みやすい環境を踏まえ、将来の希望を込めて描かせていただいた。また、カスミサンショウウオのための湿地についても、描いている。

○ 将来像イメージ図どおりになれば良い。息切れることなく、発展していきたいと思う。中間案では、子どもや若者に文化を伝えるという役目が大きいと感じられる。余談ではあるが、先日開催のあったSATOYAMA市民フォーラムにて、エコクラブの卒業生が偶然通りかかり、その場でサポーターに登録してもらえた。このような発信していく機会は大いにした

い。

- 環境教育に関する記載が少ないと感じる。自然体験と倫理観だけでは不足と考える。オオタカと環境の関係や、食べ物の重要性を記載するべきである。また、放置林の問題など、環境教育に関する記述を充実させてはどうか。
- 竹ネットでは、植物の生態の調査を実験的に行っている。このような調査や実験ができる場所であることが重要であり、現地で体験ができる学習の場として使っていきたい。
- そのような試みは大切である。実験的な試みができる場という位置づけも記述するべきである。

- 中間案を確認し、改めて今後どのように活動するのかという決意も新たにしないといけないと感じる。29頁の歴史文化観光フィールドにおける主な取組の中で、「鹿背山の歴史文化の基層性」など、必要以上に複雑な言葉が使われている。わかりやすい表現を使うべきでは。
→再確認し、修正する。

- 35頁記載の営巣木であるが、具体的にどうするのか。妙案があれば。
- 現地を歩いていたら、直感的に感じる営巣木候補を発見することができる。このようなことから、出来るだけ現場主義でと考える。
- 現場主義は大切であり理解する。万博記念公園では、連続して営巣・子育てに成功している。飛翔ルートなどを、現場に応じて考えることは大切である。

- 土地利用計画を策定した時点で、活動団体があつたことの影響が大きいと考える。活動する団体がいるから、この区域の里山保全活動ができるのではと見え、今回の計画策定を目指した。市は計画を作るだけでなく、応援団や、土地の入手、活用を進めるための組織づくりなど、市の役割を果たしながら新たな団体の募集も行っていきたい。現在、市の職員が多く所属する「キノコもクラブ」で里山活動を行っているが、仕事をしながらでもできるということを伝えたい。活動により、キノコのような自然の恵みが入ればより楽しいのではと感じる。

- 目に見え、享受できる里山の恵みは活動の手助けになる。ただ、農地の取得が自治体にできない、といった問題も付きまとうこともしばしばあると聞く。横浜市では昔から農地を公園にし、このような活動を行っている。その公園では田んぼ・畑・里山が共存しており、NPOが運営している。もともとは地域の方が、遺産相続する人がいなく、市がその土地を受け取り、NPOに管理を委託したことから始まったと聞いている。現在も熱心

に行っているとのことであり、このような形を目指したい。兵庫県の公園にもたくさん活動団体があり、最初は恵みを整理する際に問題があったそうであるが、課題解決したとき。木津川市も、制度などを調べ、運用してはどうか。自然の恵みを、みんなでシェアし、活動のモチベーションに繋げたい。

- URとして、木津北地区が事業中止になり、10年かかり木津川市・地元の活動団体の協力を得て、ここまで形になったことを感謝する。土地開発こそできなくとも、他の形で協力したい。URの土地は市に譲渡することになっており、できるだけ協力したいと考えている。
- 前回の協議会でナラ枯れの話が出たが、URの中でも検討を行っている。現在は、団体により、切れるところは切っていただいている。ナラ枯れは大木に発生することが多く、簡単には伐採できない。URとして、安全上問題があるところには対策をする必要があると考え、伐採をしたいと考えている。9月にも実地調査を行っており、ある程度数量は把握している。
- ナラ枯れの対策は、ステージによって対策が違う。京都はピークが過ぎ、宝が池では多大な被害があった。殺虫剤を使うことも難しく、枯らさずに駆除をすることは素人には難しい。専門家にも見てもらう必要がある。短期的に課題が起これるようなことなので、きちんとした対応をしなければならぬ。環境にやさしい対処方法をとることが必要である。特にナラ枯れはこれからがピークになると考えられる。
- 専門的な知識はないが、ナラ枯れは20年以上の大木にしかならないと聞く。鹿背山城の近くに1本見つけたと思ったら、周辺にもあることに気付いた。生きているうちに伐採し、新しい芽を活かすといった対応を考えるが。
 - それができなかったため、現在ナラ枯れが問題になっている。生きている間に切るのがベストである。いずれにしろ、対応をしっかり見極めることが重要である。中間案で、対処方法を記述することは難しい。コストとパフォーマンスを考えた上で対処方法等を考えなくてはならない。
- 民有地との境界が不明確である。私有地の木を伐採してしまった場合、責任が取れない。境界確定について、URに明示してもらいたい。
- URにおいては、平成22年度から、測量等調査を行なっている。その際に境界の確認も行っている。今年度で終了する予定である。調査結果等について、市に情報を引き継ぐこととしている。
- 7頁には、緑の基本計画が調整中とあるが、これまで、都市部には公園を作るといったことを計画し、山間部では森・緑地を大雑把に分けている

	<p>が、計画の中には里地里山の概念を取り入れてもらいたい。また、25 頁の敷地内だけの整備図だけでなく、区域外への繋がりも必要と考える。28 頁には、フィールドが記載されているが、各フィールドが独立してしまっているように誤解をされないようにしてもらいたい。</p> <p>・サブタイトル（愛称）のネーミングについて 審議結果要旨のとおり。</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、●…会長、→…質疑に対する返答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 横文字は止めたい。 ○ 鹿背山という地名を出すのか。 ○ 鹿背山のネームバリューは大きい。 ○ 鹿背山城が、開発により無くなると危惧されていた方もあり、鹿背山という文言に興味を抱いている人も多いのではと考える。 ○ 鹿背山の保全を望む人は多く、是非取り入れるべきである。 ○ 鹿背山の文言は、地元住民の了承さえあれば入れて欲しい。 ○ サブタイトルとしての役割も考えるべき。 <p>4. 閉会 今回の協議会は、事務局より後日、通知することとした。</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>随行者 8 人</p>